

# 令和4年度 全国学力学習状況調査〈理科〉

生野中学校

## 1 正答率の高かった問題

- 化学変化のようすをモデルで表す。
- 実験の際に、変えない条件と変える条件を考えながら、実験を計画する。
- 実験の結果に対する考察を、より正しいものにするために必要な実験を計画する。
- 生物の体のつくりに関すること。

## 2 正答率の低かった問題

- 地層の傾きを推測する。
- 天気に関する現象について、問題文中の考察が妥当かどうかを判断し、改善点を見出す。
- 天気の観測データと天気図を照らし合わせて、天気の変化を分析する。
- 水素を燃料として使うしくみの例から、必要な条件を見出す。

## 3 全体を通して

- 記述式の問題は、無回答率が高くなる傾向がある。自分の考えを言語化し、発表する機会をしっかりと設定する必要がある。
- コロナ禍の影響で、実験・観察が充分に行えなかったり、グループ活動ができなかったりした単元に関しての正答率が低い傾向にあった。改めて、グループ活動などで考えを深めていく場面の大切さを痛感した。
- 生物に関する単元に関して正答率が高いのは、自然に恵まれた環境が影響していると思われる。
- 短答式の問題に関しても課題が見られるため、必要な事柄を簡潔にまとめる力をつける必要があると感じた。
- 問題文の途中で解答し、誤答となっている生徒が少なからず見られるため、じっくりと取り組むことの大切さも改めて感じた。